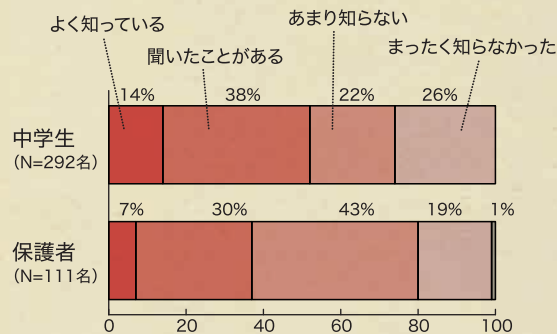


# 戦争について 私たちが知っていること

東淀川区民のうち、戦争を体験した世代(今年70才以上)は2割以下にまで減少。  
戦争をその目で見た人が少なくなる中、現在の中学生とその保護者は  
どのくらい戦争について知っているのだろう。

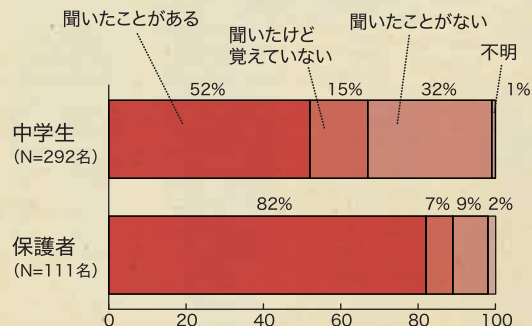
## Q1 大阪大空襲で東淀川区も 空襲の大きな被害を受けたことを知っていますか。



### A 中学生の方がよく知る 東淀川の戦災

中学生は半分以上が「よく知っている」「聞いたことがある」と答えている一方で、保護者はおよそ6割が「あまり知らない」「まったく知らなかった」と回答。自分たちが暮らす東淀川区にも大量の爆弾が落とされ、多くの人の命が失われていたことや、身近なまちの戦争の記憶は学校の授業などで学ぶせいか、保護者よりも中学生の方がよく知っているようだ。

## Q2 戦争を体験した人から 戦時中の話を聞いたことはありますか。

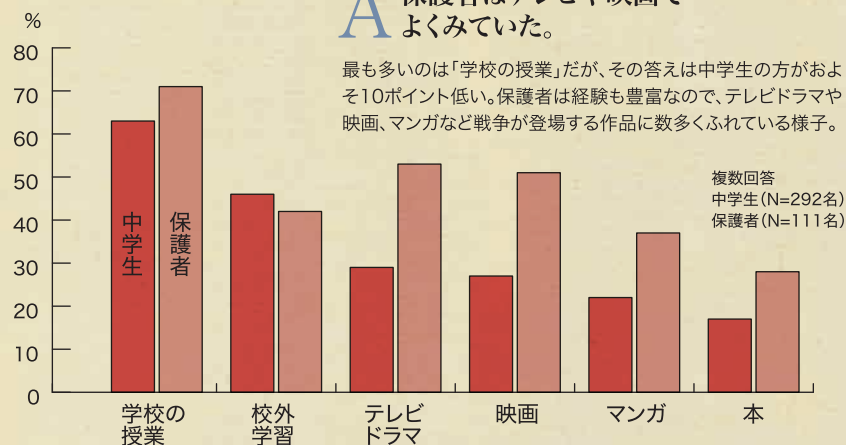


### A 保護者は9割。 中学生は7割弱。

親世代はほとんどの人が、実際の戦争の体験談にふれたことがある一方、中学生になるとその割合は減少。親世代は祖父母や父母など身近な家族から聞いたことが多い一方、中学生で最も多かったのは「平和学習での語り部」との答え。子どもたちにとっては今後ますます戦争の話は特別な体験になっていくようだ。

## Q3 体験者のお話のほかに戦争については どこで学びましたか。

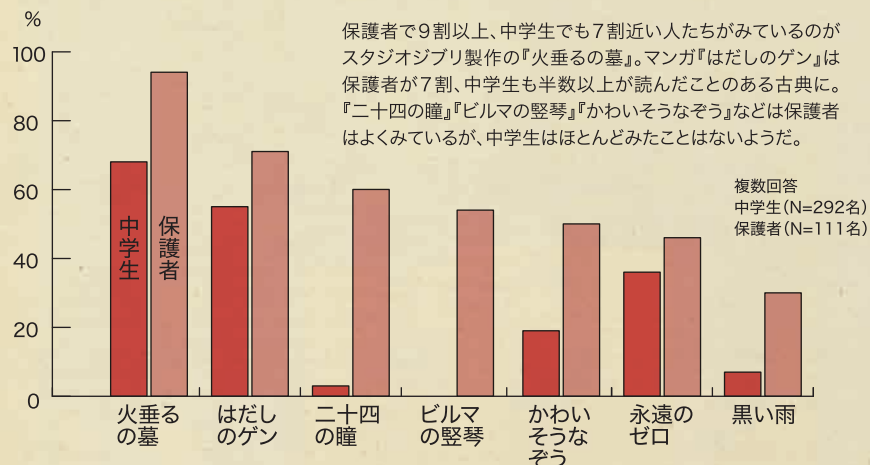
### A 保護者はテレビや映画で よくみていた。



最も多いのは「学校の授業」だが、その答えは中学生の方がおよそ10ポイント低い。保護者は経験も豊富なので、テレビドラマや映画、マンガなど戦争が登場する作品に数多くふれている様子。

## Q4 戦争についてみたことがある 作品を教えてください。

### A 『火垂るの墓』は 世代を越える。



保護者で9割以上、中学生でも7割近い人たちがみているのがスタジオジブリ製作の『火垂るの墓』。マンガ『はだしのゲン』は保護者が7割、中学生も半数以上が読んだことのある古典に。『二十四の瞳』『ビルマの竖琴』『かわいそうなぞう』などは保護者によくみているが、中学生はほとんどみたことはないようだ。

調査期間：2015年7月  
調査対象：東淀川区内の中学生 292名  
保護者(30才代～50才代) 111名  
調査協力：東淀川区PTA連絡協議会  
井高野中学校、瑞光中学校、大桐中学校、東淀中学校、新東淀中学校  
柴島中学校、淡路中学校、中島中学校(むくのき学園)